

「世界道路交通被害者の日（ワールドデイ） 北海道フォーラム 2019」開催報告

日時・会場： 11月16日（土）、13:30～16:30 札幌市「かでの2・7」
主催： 北海道交通事故被害者の会
後援： 北海道、北海道警察、札幌市
協力： 世界道路交通被害者の日・日本フォーラム、クルマ社会を問い直す会

〈次第〉

主催者挨拶 北海道交通事故被害者の会 代表 前田 敏章

第1部 ゼロへの願い：被害者の訴え～こんな悲しみ苦しみは私たちが終わりにして下さい～

- ◆「二つの命、この25年伝え続けていること」 福澤きよ子さん（北斗市）

- ◆「中島朱希さん被害事件、ご遺族のたたかいと最高裁決定の意義」 青野渉弁護士
資料手記「飲酒暴走の危険運転に命を奪われた妻の無念を忘れない」中島さん（旭川市）

第2部 ゼロへの提言：

特別講演

「交通犯罪における被害者の尊厳を考える～基本法制定から15年の課題～」

講師 諸澤 英道氏

プロフィール：

常磐大学元学長 世界被害者学会理事「被害者が創る条例研究会」メンバー
専門は、被害者学・刑事政策学・犯罪学。

著書に「被害者学」・「被害者のための正義」（成文堂）、「被害者支援を創る」（岩波ブックレット）など。

第3部 ゼロへの誓い：

- ・北海道 環境生活部 くらし安全局 道民生活課 課長 屋代 芳彦氏
- ・北海道警察本部 交通部

閉会挨拶 いのちのパネル実行委員長 小野茂

「世界道路交通被害者の日（ワールドデイ） 北海道フォーラム 2019」は、11月16日（土）、札幌市の「かでの2・7」を会場に、市民と関係者、被害者の会会員など80人が集い、交通死傷ゼロへの誓いを新たにしました。



司会を務めたのは、ご自身が生まれる前に兄を奪われた佐藤茜莉さん。

最初に今年1月以来道内で交通死された131人をはじめ、これまでの世界中の犠牲者に黙禱を捧げました。

次に、代表の前田から、本ワールドディ・北海道フォーラムが、東京・芝公園での「日本フォーラム」主催のキャンドル集会や秋田県警が継続している「黄色の風車」運動など全国のとりくみと連帯して行われていること、去る11月5日、今回も提案している「交通死傷ゼロへの提言」を基に、11次交通安全基本計画（2021～）に向けての意見提言を行ったことなど、報告も兼ねた主催者挨拶がありました。

第1部「ゼロへの願い～こんな悲しみ苦しみは私たちが終わりにしてください～」では、北斗市の会員福澤きよ子さん（写真）が、「二つの命、この25年伝え続けていること」と題し被害ゼロを訴えました。当時小学6年生の双子の姉妹のお子様を通学途中に歩道に乗り上げた暴走トラックによって奪われた悲しみと苦しみを切々と語る言葉に、参加者はすすり泣きながら、クルマが日常的に凶器となっている現状変えなければ、という決意を共にしました。



続いて青野弁護士からは、旭川市の中島朱希さん被害事件について、ご家族の手記「飲酒暴走の危険運転に命を奪われた妻の無念を忘れない」を紹介しながら、訴因変更を求めた取り組みと、このほど確定した最高裁決定（2019年8月29日）の意義が報告されました。



第2部「ゼロへの提言」は、被害者学の諸澤英道氏（写真）より「交通犯罪における被害者の尊厳を考える～基本法制定からの高齢者を被害者にも加害者にもさせないために～」をテーマに特別講演。世界的視野から日本における被害者問題の現状と課題が教示され、わが国で遅れている被害者理解を深めることが交通犯罪防止にもつながることなど強調されました。

講演後は、道内外から参加の支援・研究者の方を含めた会場発言による交流討議が行われ、「札幌市に犯罪被害者条例を作る市民会議」の座長を務める山田廣弁護士からは、「被害者の救済は、法律によって国と地方の両方で取り組まなければならない。制令指定都市札幌での特化条例制定は急務」との貴重なご発言。また、留萌管内遠別町の交通安全に取り組む住民課からは、本フォーラムに交通指導員の方など11人で参加されているというご発言があり、参加者と主催者を大きく励ましてくれました。

第2部のまとめは、コーディネーターを務めた内藤副代表（弁護士）が、諸澤先生の講演から学んだ感想と前置きして「『刑事司法は被害者のためにもある』を具現化するため、被害者参加制度など公正な刑事司法を目指すべきこと、メディアの理解をさらに得ていく必要があること、被害者に必要な支えは、どこに住んでいても受けられるべきである」とまとめられました。

第3部「ゼロへの誓い」では、道（道民生活課）と道警（交通部）から、討議を踏まえた力強いご挨拶を受け、最後に、「いのちのパネル」実行委員長の小野さんから、講師をはじめ参加者の皆様へお礼の閉会挨拶があり、約3時間のフォーラムを閉じました。

出席者からは、

★ 福澤さんのお話を聞くことができ良かったです。交通犯罪の悲惨さを周りにも伝えて行こうと思います。ありがとうございました。

★ 直接被害者の声が聴けて良かった。車を運転する者として、改めて、一つまちがえば車が凶器に変わってしまうことを実感した。

★ 諸澤先生の言われた事、何十年も前に被害に遭った当事者の私はず～と思い続けていた事で、やっと被害者の立場に目を向けてくれるようになってきたのかと、少しの光が差し込みました。被害者自身は、当初は何もできないのです。

★ 交通犯罪被害に対する国民の意識を変えていくことが被害根絶につながる。

★ 被害者を護ることの大切さが良くわかりました。犯罪者（特に交通犯罪）に対する量刑の重さという、大切な問題解決が早まればよいと思いました。

★ 自分も認識を改め、社会に働きかける力になりたい。

など、今フォーラムの意義を評価する感想が多数寄せられています。

私たちは、20年前の発足当初より、支援に関わる機関や団体そして道民の方が、被害者を真ん中に置いて集い連携を深める市民参加のフォーラムを継続して開催しているところですが、今フォーラムの成功を糧に、被害者の尊厳と権利の確立、そして犠牲を無にしないための交通死傷ゼロを求める諸活動をさらに前へ進めたいと決意をしています。

(前田記)

世界道路交通被害者の日・いのちのパネル展

2019年11月14日

札幌駅地下歩行空間（札幌市区政課の協力で開催）



北海道新聞 2019年11月19日夕刊

家族失った被害者 悲しみ訴え

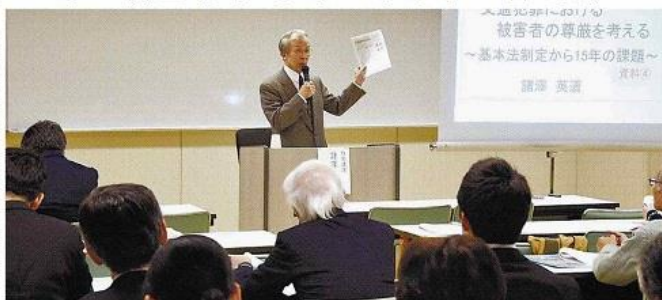
事故死ゼロ目指すフォーラム 札幌

交通事故による死傷者ゼロを目指す北海道フォーラムが、札幌市中央区のかでる2・7で開かれ、事故で家族を失った被害者や、被害者支援の研究者らが講演した。

北斗市の福沢きよ子さんは1994年7月、当時小学6年の双子の娘を交通事故で一度に失った。凄惨な事故現場で歩けなくなるほどの衝撃を受けたことを振り返り、「命ある限り子どもたちのことは忘れない。このような事故を起こさないと訴えた。交通事故や犯罪の被害者の支援を研究する諸沢英道・元常磐大学長は「警察だけに任せるのではなく、市町村も関わるべきだ」と述べ、各自治体で被害者を支援する条例制定を求めた。

フォーラムは、北海道交通事故被害者の会が、国連の「世界道路交通被害者の日」（11月第3日曜）に合わせて毎年開いている。今年は16日に開催し、市民や関係機関の約80人が参加した。

(相川康暁)



交通事故による死傷者ゼロを目指すために開かれた北海道フォーラム